



## 北部九州における玉製品の 生産と流通・受容について

岡寺 良（福岡県総務部国立博物館対策室）

北部九州では、他の日本海沿岸地域とは異なり、地域内において玉製品を生産していたというイメージは非常に薄い。しかし、弥生時代の北部九州の玉製品を概観すると、玉製品を主体的に受容、消費そして生産していたことがわかる。以下、北部九州の玉製品の受容、消費、生産の様相を提示する。弥生時代の前段階となる縄文時代晩期には、北部九州では、九州南部で製作されたと考えられる濃緑色の変成岩（蛇紋岩）製のエンタシス状の管玉と「コ」の字状の勾玉がセットとなって流入する。しかし、これらの玉製品は、弥生時代の開始に相前後して急速に衰退していき、弥生時代の玉製品へとつながることはなかった。

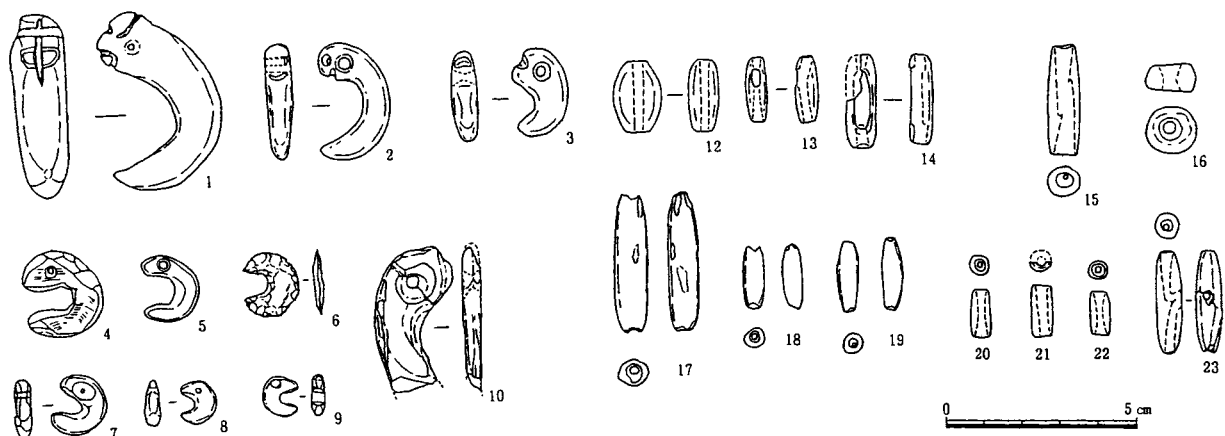
弥生時代に入ると、天河石（アマゾナイト）<sup>てんがせき</sup>製の勾玉、硬質緑色凝灰岩製の管玉、翡翠製の勾玉などが認められるようになる。天河石製の勾玉は朝鮮半島製と考えられ、日本列島では北部九州にのみ分布し、数例を数えるに過ぎない。また、硬質緑色凝灰岩製の管玉は、時期の早いものでは早期の佐賀県菜畑遺跡出土品があげられ、弥生時代後期まで継続して確認できる。前期のものの多くは朝鮮半島製と想定され、理化学的分析の結果では、北部九州から中国・四国地方にかけての地域に分布している。翡翠製の勾玉は、朝鮮半島製の玉類とは異なり、北陸地方（姫川・青海川流域）産であるが、北部九州によく認められる緒締形・丁字頭形・櫛形の勾玉は、その分布から、北部九州内で生産されたと考えられる。これらの他にも、朝鮮半島製のガラス製品も流入するようになり、玉製品に非常にバリエーションが出てくるのもこの時期からである。

弥生時代後期には、それ以前の玉製品に加え、春日市須玖遺跡群を中心とした福岡平野から佐賀平野にかけての地域で、ガラス製の勾玉・丸玉が生産されるようになり、それとほぼ同じ地域で製品が出土している。須玖五反田遺跡では、弥生時代後期後半のガラス工房跡が検出されており、ガラス滓（鉛バリウムガラス）土製鑄型（勾玉・丸玉）<sup>るつぽ</sup> 埴塼片が出土している。

また、甘木市平塚川添遺跡や福岡市西新町遺跡などの数例の遺跡では、緑色凝灰岩製の原石や管玉未製品などが出土してはいるが、単発で非常に小規模である。なお、西新町遺跡からは、古墳時代初頭を前後する時期の蛇紋岩製勾玉未成品や小玉鑄型も出土しており、特に小玉の土製鑄型は、朝鮮半島にしか出土例が見られない特徴をもつもので、朝鮮半島との交流を物語る資料だが、ガラス製勾玉や丸玉とは異なり、同時期の小玉のほとんどが鑄造製品でなく、朝鮮半島で他の技法で製作されたものであることから、ガラス小玉の鑄造は非常に小規模であったと考えられる。

そして、古墳時代初頭以降、北部九州を主体とした玉製品の生産及び流通は、衰退・消滅していき、この時期に、玉製品の流通体系の変化を求めることができよう。

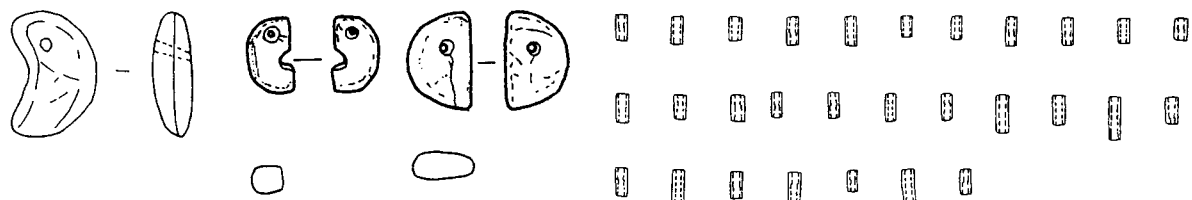
以上のように、北部九州の弥生時代には朝鮮半島からの一貫した玉製品の流入が認められ、北部九州を基点とした列島内での玉製品の流通圏も、かなり広域にわたっていたと想定できる。また、翡翠製・ガラス製勾玉に見るように、北部九州が独自に、かつ主体的に生産していた玉製品も少なくない。しかし、それらの勾玉や朝鮮半島から少量しか流入しなかった天河石製勾玉などは、他地域に流通することなく自己完結的な流通のあり方を示している。この点に北部九州の弥生時代社会の特色が表れているといえよう。



1・8・17～19 熊本県中堂 (1は土製), 2・3・12～14 熊本県ワクド  
石, 4・5 大分県大石, 6・15・16 熊本県上南部, 7 福岡県高原, 9・10・  
20～23 福岡県梅現塚北

#### 九州縄文時代晩期の玉製品

(松本直子1998「玉類の分析からみた縄文時代後晩期九州における文化動態の一側面」『人類学研究』10)



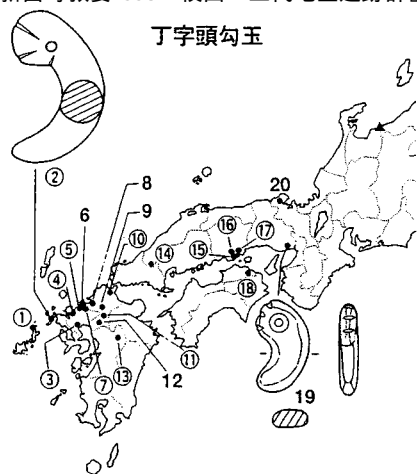
福岡県夜須町大木遺跡

福岡県新宮町三代貝塚

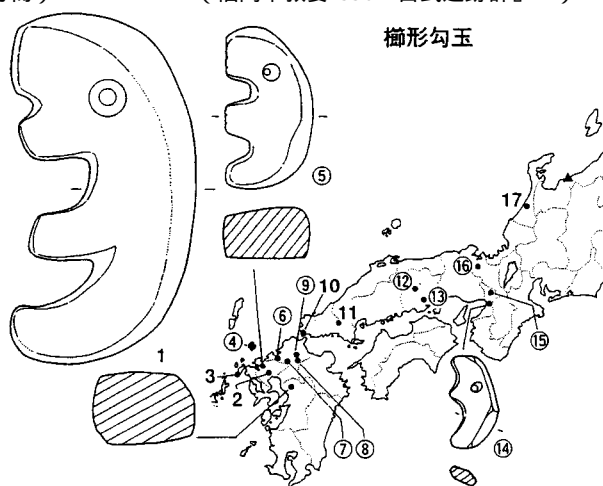
福岡市吉武高木遺跡

天河石 (アマゾナイト) 製勾玉 (夜須町教委1997『大木遺跡』新宮町教委1995『夜臼・三代地区遺跡群』第5分冊)

弥生時代前期の緑色凝灰岩製管玉 (福岡市教委1996『吉武遺跡群』Ⅷ)



丁字頭勾玉



櫛形勾玉

(S = 1/2)

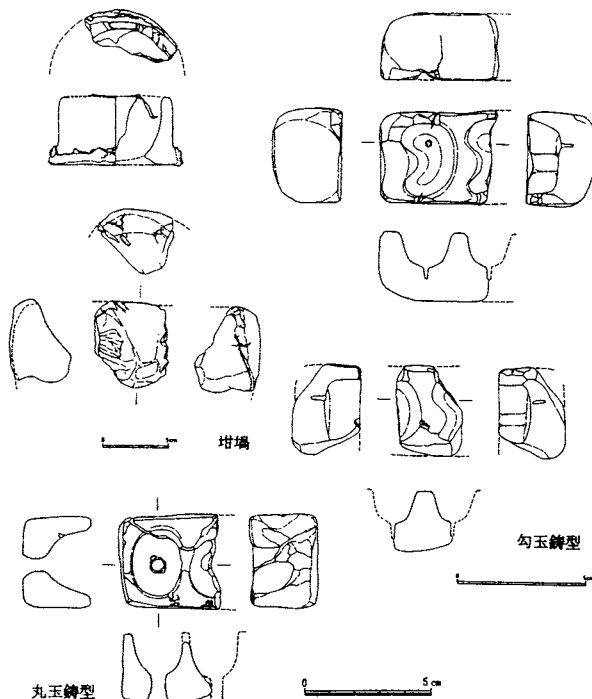
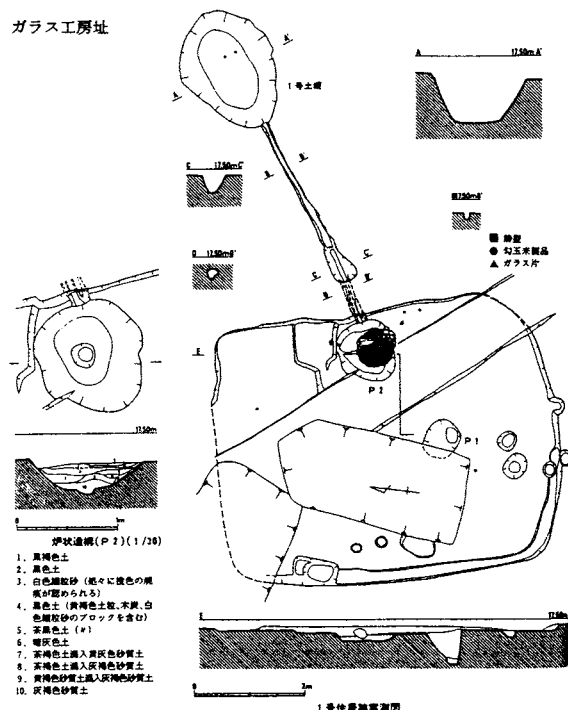
番号に○はヒスイ, ▲は糸魚川ヒスイ産地

- ①. 長崎県神ノ崎 ②. 長崎県根獅子 ③. 佐賀県  
枕島山 ④. 佐賀県宇木汲田 (2点) ⑤. 福岡県石  
ヶ崎小路 ⑥. 福岡県平原 (ガラス製3点) ⑦. 三  
雲南小路 (ほかにガラス製1点) ⑧. 福岡県須玖岡  
本 (ガラス製) ⑨. 福岡県豆田 ⑩. 福岡県岡  
⑪. 福岡県平塚垣添 ⑫. 福岡県祇園山 ⑬. 熊本  
県下山西 ⑭. 島根県前立山 ⑮. 岡山県橋築  
⑯. 岡山県鑄物師谷 ⑰. 岡山県雲山鳥打 ⑱. 香  
川県大井 ⑲. 兵庫県田能 ⑳. 京都府奈具岡

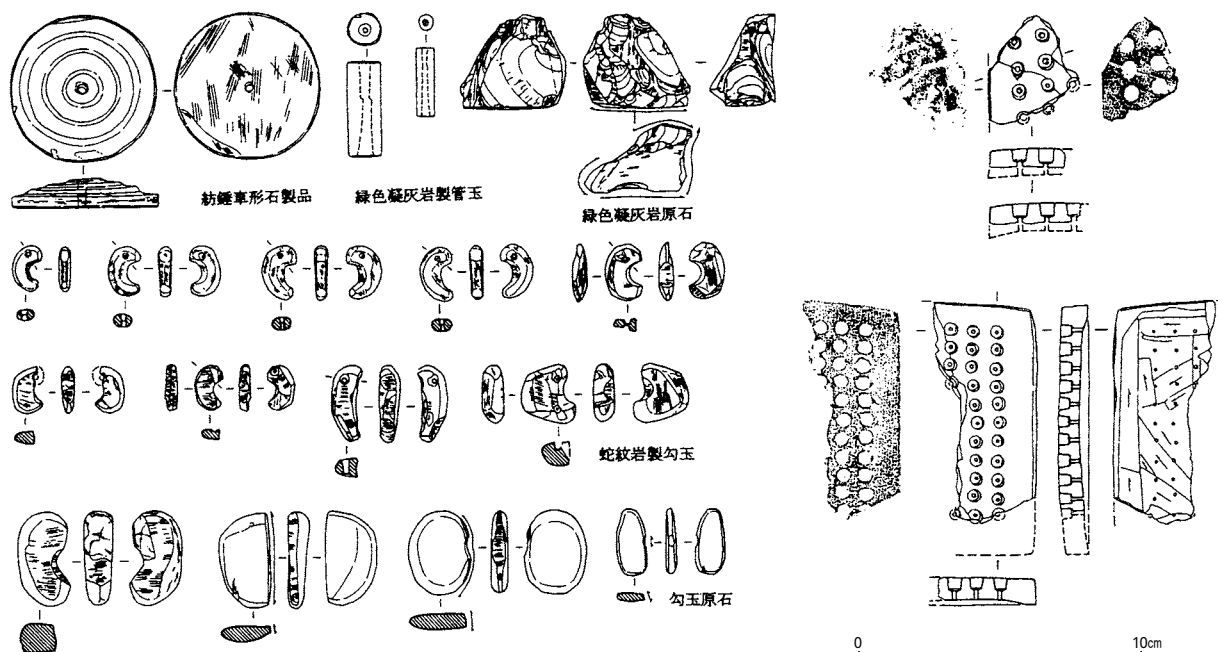
1. 熊本県鹿央町出土 2. 佐賀県牟田辺 3. 長  
崎県津吉 ④. 長崎県原ノ辻 ⑤. 佐賀県宇木汲田  
⑥. 福岡県吉武高木 ⑦. 福岡県津古内畑 ⑧. 福  
岡県アナフ (2点) ⑨. 福岡県鎌田原 ⑩. 山口県  
綾羅木郷 ⑪. 山口県惣ノ尻 ⑫. 岡山県宮の前  
⑬. 岡山県矢藤治山 ⑭. 大阪府鬼虎川 ⑮. 大阪  
府高宮八丁 ⑯. 京都府青野西 ⑰. 石川県寺中

翡翠製勾玉 (丁字頭形・櫛形) の分布 (河村好光2000「ヒスイ勾玉の誕生」『考古学研究』47 3)

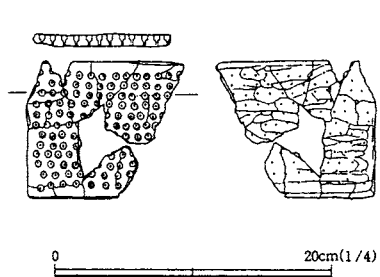
ガラス工房址



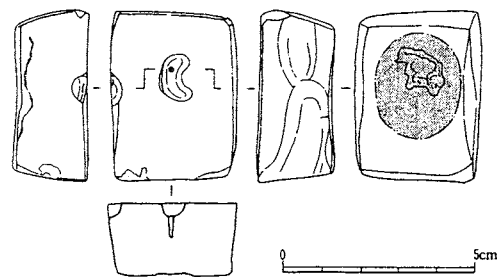
春日市須玖五反田遺跡 (春日市教委1994・1995「須玖五反田遺跡」1・2)



西新町遺跡出土玉生産関連遺物 (福岡県教委2000『西新町遺跡』Ⅱ)



京畿道漢沙里遺跡出土ガラス玉鏤型 (漢沙里先史遺蹟発掘調査団1994『漢沙里』5)



西新町遺跡ガラス玉鏤型 (福岡県教委2000『西新町遺跡』Ⅱ)